

4段階評価	4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する
-------	---

学校経営ビジョン	「自信を持ち、夢や希望をもった、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～ 【テーマ やればできる！できるまでやる！パワーアップ須木小】
----------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	委員評価	学校運営協議会委員のコメント
知育	基礎基本の定着及び主体的に学ぶ児童の育成 【学習成果を実感し、仲間と喜び、教えあえる学びづくり】 ア 基本的学習習慣の徹底 イ 家庭学習の確立 ウ ICT機器の活用 エ キャリア教育の充実 オ 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日指導をしているが、定着しない児童がいる。鉛筆の持ち方を上学年になって矯正するのは大変難しいが、根気強く指導していく必要がある。 ・パワーアップタイムで、学習の振り返りを行い、学力の定着を図ってきた。該当学年の学習内容の定着を見届けて、次の学年へ送り出す必要がある。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組み、1人1研究授業の実践を通して研究を深めた。 ・家庭学習の手引きをもとに、年度初めに、家庭学習の取り組み方について指導を行った。宿題の提出率はよく、保護者も関わっている。 ・家庭学習の内容が偏ったものにならないように、担任がアドバイスを送ったり、よい取組ができていたノートを紹介することで取組の改善を図ってきた。 ・AIDリルを用いた家庭学習の課題については、長期休業中に実施。通常時については、調べ学習など、必要がある場合に持ち帰らせるようにした。 ・授業の中で、ワード、パワーポイントを用いて、学習内容をまとめることができるようになってきた。また、タイピングや調べ学習、係活動などにおいて、タブレットを日常的に活用する姿が見られる。 ・幸ヶ丘小学校と外国語の遠隔授業の実践を行った。次年度はさらに遠隔授業に取り組み、子どもたちの視野を広げていきたい。 ・朝のすきるタイムで、ICTに関するスキルアップにも取り組んでいる。情報モラルに関する指導を更に系統的に実施していく必要がある。 ・生活科、社会科の校外学習や遠足等で、地域で働いている人と自分たちの生活との関わりを見つけることができた。また、総合的な学習の時間や理科、行事等で、外部の講師(専門家)を活用することで、より専門的なことを学ぶことができた。 ・修学旅行での自主研修において、鹿児島県の町で出会った方々に、須木の魅力PRする活動を行うことでコミュニケーション力の育成を図った。 ・多読賞の紹介や読書ビンゴなどの取組を行いながら読書量の向上に取り組んできたが、読書の質や量には個人差がある。 ・教師や図書委員会による読み聞かせや校内放送によるおすすめの本紹介、全校集会で図書委員会が大型絵本の読み聞かせやクイズなど様々な取組を行ってきたことで、児童が本にふれる機会が多くなった。次年度も継続的に実施していき、活字に親しむことのできる児童を育成していきたい。 ・6年生が、月1回程度、宅習ノートに新聞記事をもとに自分が考えたことを文章で表現する活動に取り組んだ。次年度は、子ども新聞の効果的な活用を図りたい。 ・図書館協力員と連携を図り、授業に関連する本を準備したり、時期に合わせた調べ学習コーナーを設定したりすることで、図書館の活用が図られた。 ・eライブラリーについての活用はあまり見られない状況であった。次年度の取組については検討する必要がある。 	3.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習、家庭学習、キャリア教育、ICT機器活用、読書とテーマに沿ったきめ細かい取組は素晴らしいと思う。 ・本校は少人数であるため、一人一人に対する指導は十分に行き届いていると感じるが、その指導を児童が受け止めてくれるかが重要であると思う。引き続き、児童の個性や能力に応じた指導をお願いしたい。 ・学力の向上は、先生と児童の信頼関係から生まれる。児童一人一人と会話を交わし、ほめる授業が有効であると思う。 ・外国の教育スタイルと同じで、どの学年も子どもたちが主体で学び、考え、教え合い、発表し、先生がほめてアドバイスをスタイルの授業が須木小学校でも取り入れられている。「ほめる授業がやる気を促す」 ・タブレット活用も定着して、楽しく授業ができていくように思う。 ・ICTを活用した教育は、今後ますます進んでいくと思う。しかしながら、タブレットばかりを扱っていて、辞書を引くことが少ないことが懸念される。 ・家庭学習、読書は、保護者の協力が不可欠である。 ・校外学習の実施もどんどん進めていき、視野を広げてほしい。 ・読書については、考察にある通り個人差はあると思うが、子どもたちは活字にふれることが大事だと思う。学校の図書室やふるさとセンターの図書館の利用を推奨してほしい。 ・英検も大事であるが、話すこと、聞くことの理解が将来役立つのではと思う。
徳育	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 【豊かな心づくり】 ア いじめの早期発見と解消 イ 郷土愛の育成 ウ 一人一人が活躍できる場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応し、サポート委員会において全職員で情報を共有した。 ・SSWと児童や保護者との面談の機会を設定し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・生徒指導、人権に関する職員研修でSSWを講師として招き、関係機関との連携について教えていただいた。今後の対応に生かしていきたい。 ・12月の参観日で、人権に関する参観授業を実施した。性的マイノリティーやSNSの問題、SOSの出し方の授業を行い、保護者からも好評であった。 ・生活科や社会科の学習では、地域の様子、施設や商店などを見て回り、地域の場所や人に親しみをもつことができた。総合的な学習では、柚須農家や社会福祉協議会と連携を図りながら須木の農業や福祉について学習した。また、田尻商店のシャッターに須木の良さをアピールする絵画を作成する活動にも取り組む、須木に対する郷土愛を深めてきた。次年度も地域の方のご協力をいただきながら、須木を愛する心情を育てていきたい。 ・「すきむらんど」に協力をいただき、SUP・カヤック体験を実施することができた。須木の雄大な自然のよさにふれる活動であった。次年度は更に、須木の自然のよさにふれる活動に取り組んでいきたい。また、水辺の調査学習を本庄川の下流の学校と連携しながら実施していきたい。 ・須木の歴史や文化財については、計画を進めてきたが、パスの予約等の問題で、今年度実施できなかった。次年度は実施していきたい。 ・「みんなで〇〇する日」の企画・運営を児童に行わせることで、創造性や表現力などが成長してきた。また、放送委員会が昼の放送の時間に児童参加型の企画を計画し、たくさん児童が放送で話をする機会を設定した。 ・全校朝会や様々な行事の場で、児童の良かった点は称賛し、できていない部分は、意味付けを行いながら児童にどのような行動をすればよかった考えさせることで、自主的な活動を促してきた。 ・毎朝、校長と一緒に朝のボランティア活動に進んで参加する児童が多く見られた。 	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、不登校が話題になっている中で、須木小は少人数で楽しい、明るい環境から、いじめは発生しないと思われる。また、先生方、保護者、地域住民の愛情が素晴らしい環境を与えていると思う。 ・本校の児童は横、縦のつながりが強く、仲が良いと思う。いじめについては、あまり聞かないが、早期発見早期対応でお願いしたい。 ・故郷を愛する人材育成は地域を見て回り、須木の歴史、地域住民との触れ合いが大事である。体験教育が心豊かな郷土愛をもった子どもたちを育てると思う。 ・学校、家庭においてもタブレットを使う教育システムが導入され、子どもたちの進歩に目を見張る思いがする。その反面スマホ、タブレットの弊害も懸念される。 ・地域の方が子どもたちのことをよく気にかけてくださっており、安全安心な生活が送れている。 ・子どもたちが積極的に地域との関わりをもつような指導を進め、地域愛の醸成につなげてほしい。 ・先生方が須木の魅力を知ってほしいので、そのためには、地域にどんどん出て行ってほしい。
体育	健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 【健やかなからだづくり】 ア 早寝早起きの規則正しい生活習慣 イ 体育授業の充実 ウ 運動に親しむ児童の育成 エ 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保健日より等を通じて、健康面について保護者にお知らせするようにした。全員登校については、現時点で51日(1月31日時点)である。 ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、体調の確認や学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・こすもす科の授業の中で、養護教諭が生活習慣について指導することで、児童の意識の高まりが見られた。 ・授業でのサーキットトレーニング、主運動での運動量の確保を年間を通して実施してきたことで体力向上につながってきている。 ・体力テストの結果は、ほとんどの項目で昨年度よりも向上しているが、個人差が大きい。 ・授業でのタブレットで動きのポイントやお手本の動画などを個人で確認しながら運動に取り組むことができ、技能の向上に役立った。しかしながら教師によって個人差があるため、次年度、さらに活用機会を増えるようにしていきたい。 ・今年度は、持久走大会の内容を順位の競い合いから、自分の走る距離を伸ばすことを目指すものに変更した。このことから、すべての児童が自分の目標に向かって主体的に取り組む姿が見られた。次年度も継続して実施したい。 ・昼休みは、教師も外で児童と一緒に遊んでいることもあり、外でサッカーやドッチボールを楽しんでいる児童が多くみられる。 ・朝の会でのストレッチ運動やハンドグリップや握力計の設置、なわとびカードを活用した縄跳び運動に取り組んできたことが、体力向上につながってきている。今後も継続していきたい。 ・歯科医師を招いて虫歯のメカニズムや健康への影響、歯がさがらさの必要性について説明をしていただいた。その後、すまに治療に行く児童もいた。しかしながら、まだ治療が済んでいない児童が4名いるため、再度呼びかけていくようにする。 ・毎週火曜日の昼休み終了後に、フッ化物洗口を実施した。薬品の使用期限に対する対応も確実に実施した。 ・外部講師を招いて、薬物乱用教室や非行防止教室を実施することができた。非行防止教室の中で、SNSでの被害について具体的に話していただいたことで、児童の注意喚起につながった。今後、学校として継続的に指導していく必要がある。 	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上、健康、安全指導、危機管理等きめ細やかな取組がなされていると評価する。特にタイム5分間走の導入は自分の目標に向かう姿が見られた。 ・外遊びの奨励、体力向上習慣の活用は有効である。また、外部より運動選手を招待しての講義も有効である。 ・子どもたちを守るための安全指導は重要である。 ・児童数が少ないので、いろいろなスポーツができるわけではないが、なるべく多くの体験をさせてほしい。 ・学校の環境については、老朽化により危険な箇所も多くなっている。危険を最小限に抑えることが重要であるので、管理者に対して働きかけていくことが必要である。 ・フッ化物洗口は保育園から実施しており、小学校でも継続して行われているのがよい。 ・虫歯の治療が100%でないのが不思議である。親の義務ではないか。 ・スマホの指導については、学校だけではなく、親の指導が必要である。
食育	望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 【望ましい食習慣づくり】 ア 食に対する指導の充実、食育の推進 イ 食事バランスの推進 ウ 年間2回の弁当の日と感謝集会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で食育の授業を実施した。学級でも食育の授業を行ったことで、食事のバランスを意識させることにつながった。 ・箸の正しい持ち方ができていない児童がいる。家庭の協力も得ながら、改善を図ってきたい。 ・学級でも箸の持ち方の指導を行うが、一度身に付いたものを改善するのは、なかなか難しい。粘り強く、家庭の協力も得ながら行ってきたい。 ・学級では、残食があまりない。給食残食0に対する児童の意識は高くなっている。 ・全員出席の日は残食0を目指したが、欠席がある場合は、人権に配慮して無理に食べさせることはしなかった。 ・今年度は、第1回弁当の日(弁当または食事作り)を夏休み中に実施した。第2回弁当の日は、3月の遠足の日実施する予定である。 ・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちを持ち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。 	3.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は、箸の持ち方から、好き嫌いをなくすことなど家庭の協力が重要である。子どもたちには、須木の豊富な食資源を十分に味わって愛着をもってもらいたい。 ・箸の持ち方、鉛筆の持ち方、食べる姿勢、学ぶ姿勢等家庭教育が欠かせない。 ・肉、魚、米、野菜すべての食物は命をもって生きている。人は生きるためにそれらの命をいただいているのである。感謝の気持ちをもって食べる教えが有効であると思う。 ・現在の給食費は非常に安いので、地域の農家の方や調理される方への感謝も忘れないでほしい。 ・アレルギーの対応については、今後も事故が起こらないように最善の対応をお願いしたい。

次年度の方向性についての
校長所見

本校の課題は、一人一人の確実な学力の定着と主体性を持った児童の育成である。これまでICT機器を活用し、発表したり、他校との遠隔授業などで自分の意見を述べたり、堂々と発表したりすることができるようになってきている。しかしながら、内容をしっかり吟味したり、さらに問題を深く掘り下げたりすることへの探求心に課題が見られる。また、個人の学力の定着についても差が見られ、粘り強く取り組むことが課題である。同時に自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育や地域愛を醸成するためのふるさと教育を地域と連携しながら進めていくことも必要である。次年度は一人一人の学びに寄り添い、地域と協力しながらやキャリア教育を進めることで課題解決を図りたい。